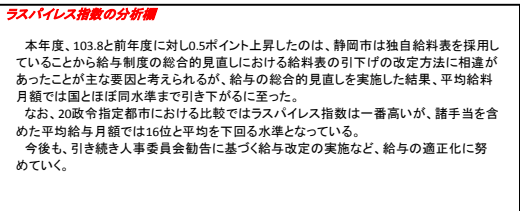
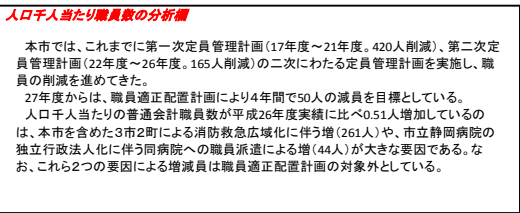
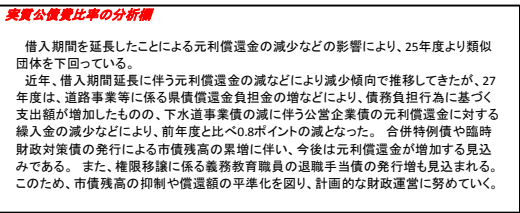
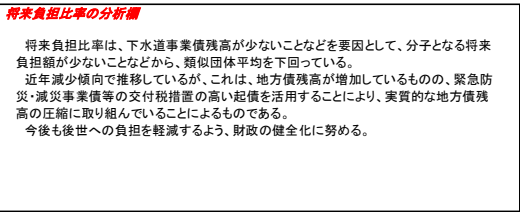
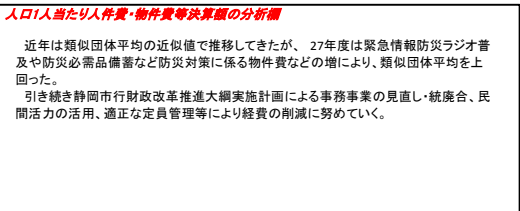
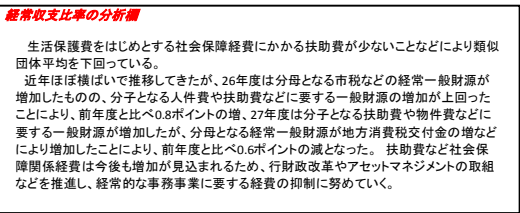
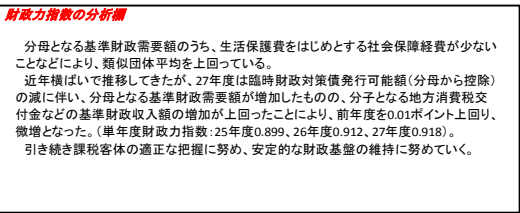


## 静岡県静岡市

 当 該 団 体 値  
 類似団体内平均値  
 類似団体内の  
 最大値及び最小値

※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

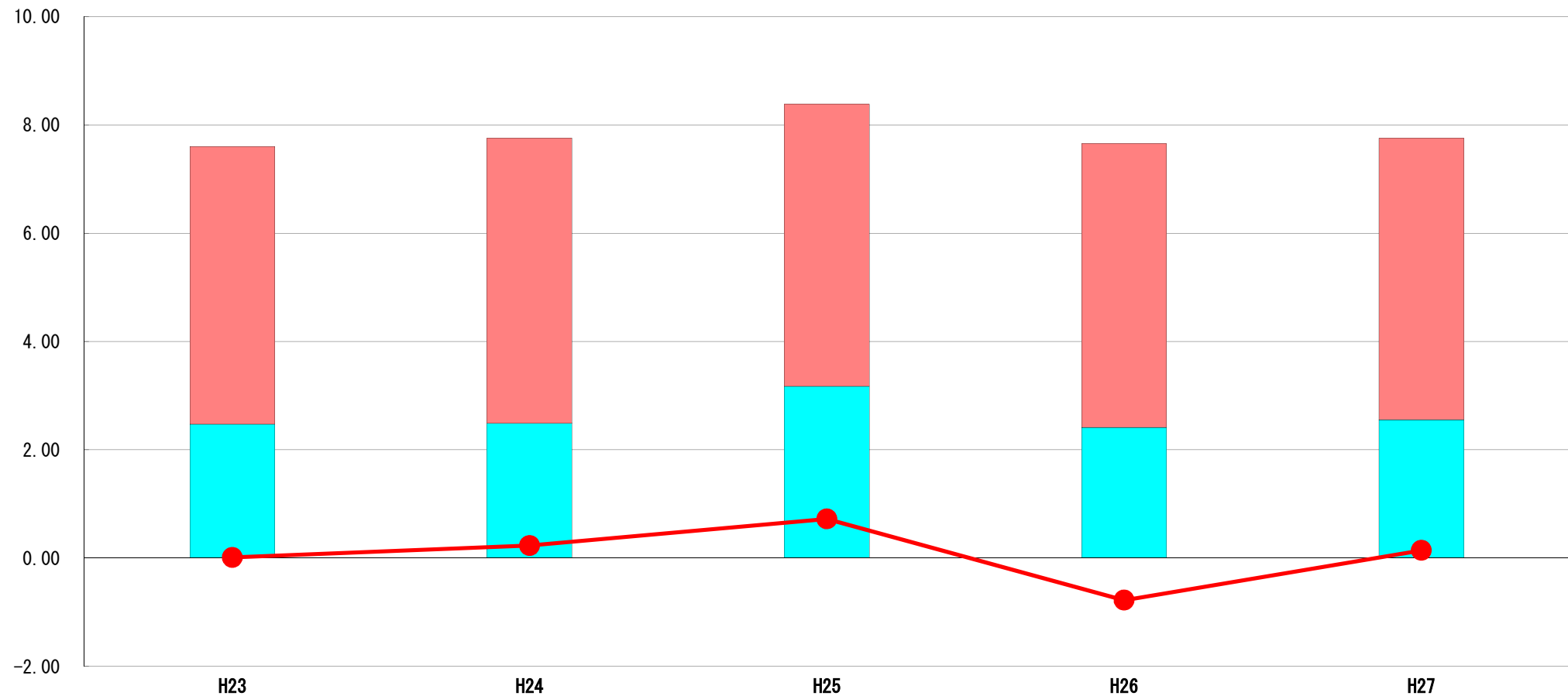


(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成27年度

静岡県静岡市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

年度		H23	H24	H25	H26	H27
区分	財政調整基金残高	5.13	5.26	5.21	5.24	5.20
	実質収支額	2.47	2.49	3.17	2.41	2.55
	実質単年度収支	0.01	0.23	0.72	▲ 0.78	0.14

**分析欄**

財政調整基金残高は、適切な財源の確保と歳出の精査により、取崩しを回避しており、前年度とほぼ同額を維持している。

実質収支額については、25年度は大型の建設事業の完了などにより歳出決算額が少なかったことなどにより約52億円と平年を上回ったが、例年40億円前後の黒字となっている。

実質単年度収支については、25年度の実質収支額が約52億円と平年を大きく上回ったことから、26年度がマイナスとなっているが、そのほかの年度はプラスを確保している。

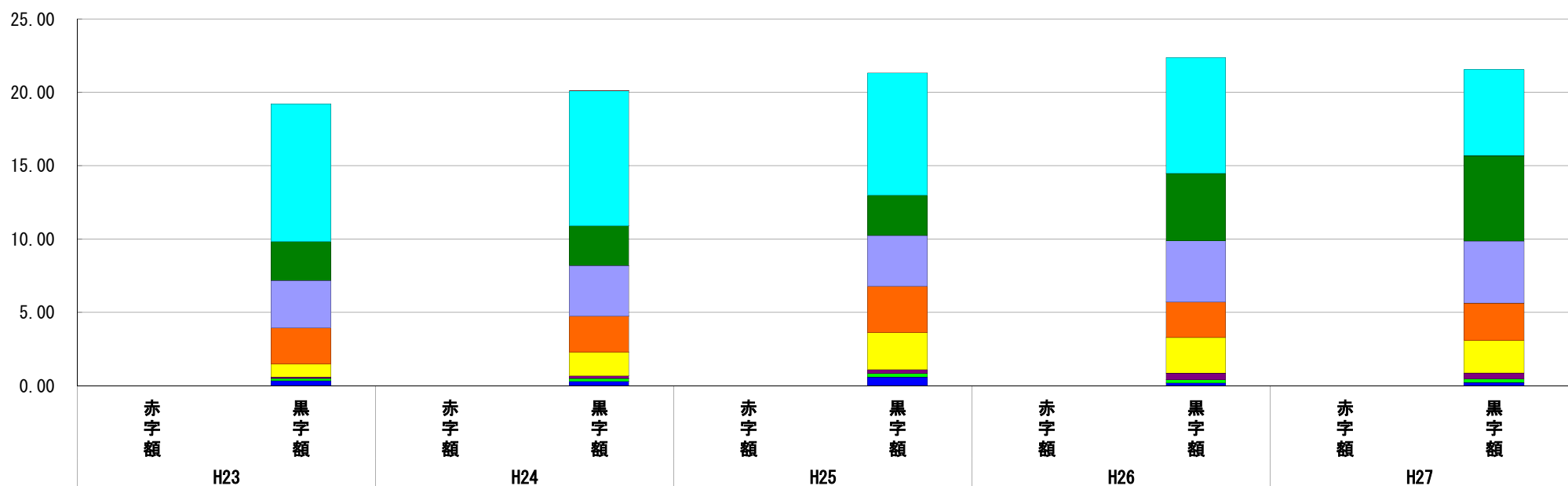
今後も、事務事業の見直し・統廃合など歳出の合理化等行財政改革や、公共資産の総資産量適正化・長寿命化のためのアセットマネジメントの取組などを推進し、健全な行財政運営に努めていく。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成27年度

静岡県静岡市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

年度		H23	H24	H25	H26	H27
会計						
母子・父子・寡婦福祉資金貸付金会計		▲ 0.00	0.01	0.00	0.00	▲ 0.00
水道事業会計		9.38	9.21	8.31	7.90	5.86
下水道事業会計		2.65	2.70	2.77	4.58	5.81
病院事業会計		3.22	3.43	3.45	4.18	4.23
一般会計		2.46	2.46	3.16	2.41	2.54
国民健康保険事業会計（事業勘定）		0.89	1.61	2.53	2.44	2.22
介護保険事業会計		0.10	0.20	0.25	0.44	0.40
競輪事業会計		0.16	0.16	0.24	0.22	0.27
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.35	0.34	0.61	0.20	0.21

**分析欄**

23年度から27年度、いずれの会計も黒字であった。

27年度は、標準財政規模に対する黒字額の割合としては、水道事業会計が5.86%と最も高く、次いで下水道事業会計5.81%、病院事業会計4.23%となっている。

なお、母子・父子・寡婦福祉資金貸付金会計の実質収支がマイナス表記されているのは、貸付金元金収入の収入額が予算額を下回ったことなどにより、形式収支を事業繰越額（歳出予算残額）が上回ったことによる。

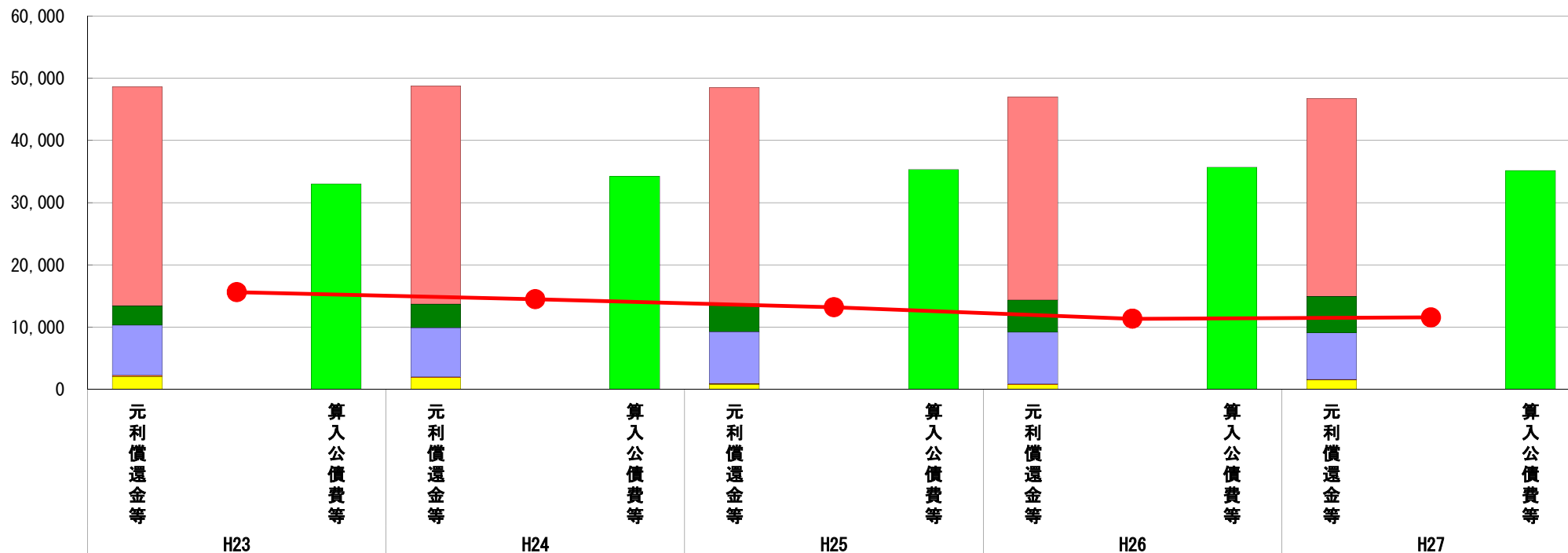
※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成27年度

静岡県静岡市

（百万円）



（百万円）

分子の構造		年度	H23	H24	H25	H26	H27
元利償還金等 (A)	元利償還金		35,206	35,029	34,746	32,665	31,821
	減債基金積立不足算定額		—	—	—	—	—
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		3,100	3,800	4,500	5,167	5,833
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		8,060	7,839	8,348	8,314	7,477
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		180	173	118	139	114
	債務負担行為に基づく支出額		2,070	1,886	788	732	1,477
	一時借入金の利子		—	—	—	—	—
算入公債費等 (B)	算入公債費等		33,005	34,246	35,322	35,688	35,176
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		15,611	14,481	13,178	11,329	11,546

## 分析欄

実質公債費比率の分子は、17年度以降実施している借入期間の延長の影響により、定時償還方式の公債元金及び公債利子などの元利償還金が減少していることなどから、23年度から26年度までは、減少傾向であった。

27年度は、道路整備事業等に係る県債償還金負担金の増などにより、債務負担行為に基づく支出額が増加したが、元利償還金の減少や、下水道事業債の減に伴う公営企業債の元利償還金に対する繰入金の減少などにより、元利償還金等が減少した。

一方、臨時財政対策債の算入額が増加したものの、減税補填債の算入額が減少したことなどにより、算入公債費等が減少したことから、実質公債費比率の分子は、前年度と比較して増加した。

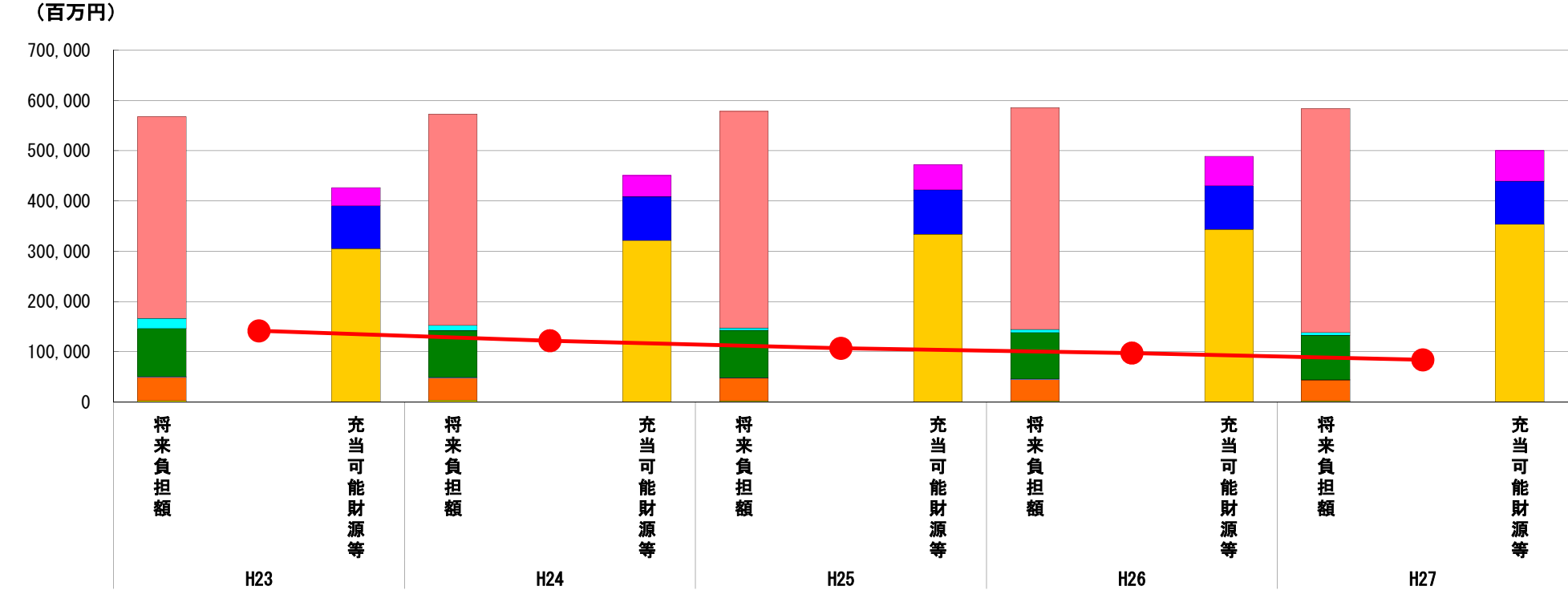
今後、市債残高の累増や、元利償還金の増加が見込まれるため、市債残高の抑制や償還額の平準化を図り、計画的な財政運営に努める。

※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成27年度

静岡県静岡市



(百万円)

分子の構造		年度	H23	H24	H25	H26	H27
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		401,642	420,297	431,143	441,893	446,030
	債務負担行為に基づく支出予定額		19,510	10,010	4,383	5,890	5,549
	公営企業債等繰入見込額		96,711	93,506	94,704	92,818	87,965
	組合等負担等見込額		1,418	1,279	1,197	1,172	1,061
	退職手当負担見込額		45,989	44,018	44,676	42,083	41,463
	設立法人等の負債額等負担見込額		2,547	3,319	2,255	2,150	2,013
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		36,115	42,052	49,956	58,151	60,772
	充当可能特定歳入		86,095	87,557	88,092	87,384	85,772
	基準財政需要額算入見込額		304,269	321,240	333,681	343,410	353,811
(A) - (B)		将来負担比率の分子	141,339	121,580	106,629	97,060	83,726

分析欄

将来負担比率が減少傾向にある要因としては、地方債残高が増加しているものの、緊急防災・減災事業債等の交付税措置の高い起債を活用することにより、実質的な地方債残高の圧縮に取り組んでいることがあげられる。今後も公債費等の削減を進め、財政の健全化に努める。

・将来負担額  
地方債残高は年々増加傾向にあるが、これは臨時財政対策債の増加に伴うもので、通常債は減少している。

また、公営企業債等繰入見込額は、26年より下水道事業債残高の減少に伴い、減少傾向にある。退職手当負担見込額は、25年に制度改正により一旦増加したものの、26年度以降は支給率の見直しや対象職員の減に伴い、減少している。

・充当可能財源等  
充当可能基金は23年度以降増加しており、これは減債基金や国民健康保険診療報酬支払準備基金などの増加によるものである。

また、基準財政需要額算入見込額は、臨時財政対策債及び緊急防災・減災事業債などの増加に伴い、23年度以降増加している。

※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。